



# いもる

'83  
2月  
第299号



## 働く人

貨車をたたいて20年

白鳥正明さん

石炭見直し時代と言われて  
いる今日、いまなを、昔なが  
らの方法で貨車から石炭を降  
ろしているのが、留萌港南岸  
の降下棧橋。

白鳥さんは、この道20年、  
俗にいう「ドンドン」隊の隊長さ  
んです。

「ヤウですね……なにしろ  
8メートルも高い所での作業  
なので、いまの時期、日本海  
から吹きつける雪は一番つら  
く、身にこたえます。

現在は、赤平、芦別から30  
トン貨車で、一日60台の石炭  
が運ばれてきます。これを限  
られた時間内に処理しなくて  
はなりません。

一番貨車が朝8時に来ます  
が、固まっているのでつつき  
棒で石炭を崩したり貨車をた  
たいたりして降しています。

つい最近も、足を滑らせて  
落ちたひとがいましたが、幸  
い大事に至りませんでした。幸  
い危険な仕事ですね」

翌日の作業日程、人員配置  
と忙しい。

作業員の安全第一だという  
(留萌港運勤務)